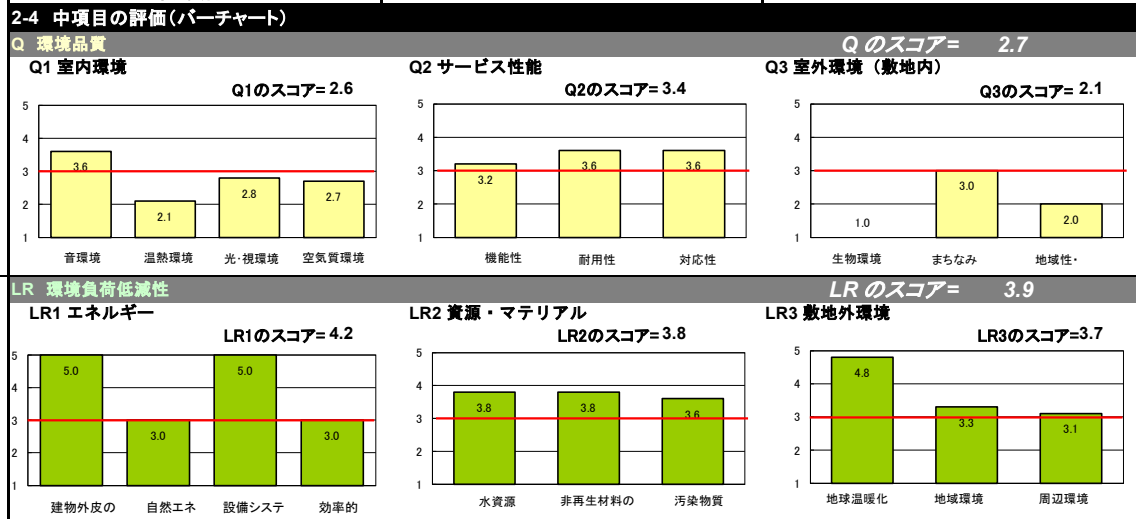
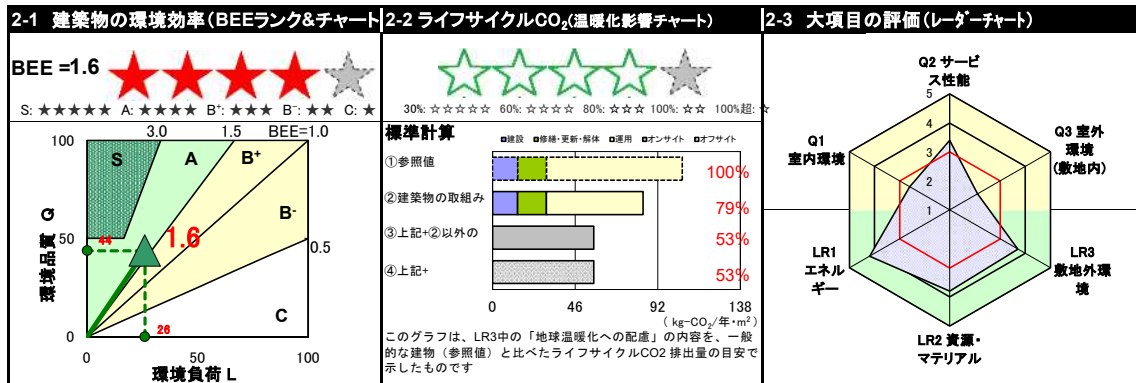


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)豊栄交通株式会社新本社ビル	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県豊田市深田町1丁目77-1の一部 78の一部 79-2の一部 79-3 80-3 123-3の一部 123-4	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	63 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年10月24日
敷地面積	1,650 m ²	作成者	原田孝
建築面積	817 m ²	確認日	2025年10月31日
延床面積	2,190 m ²	確認者	原田孝



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮 4.8 	③敷地内の緑化 1.0 外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 6.9 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用 3.7 	④地域材の活用 1.0 <外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
 - LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
 - Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 - LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
 - Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)豊栄交通株式会社新本社ビル

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
		Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				0.1	3.6	0.15	-	-	-	3.6
1.2 遮音				3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1 開口部遮音性能			開口部遮音性能T-2以上。	0.4	4.2	0.40	-	-	-	
2 界壁遮音性能				-	5.0	0.60	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.40	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音			壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している。	-	4.0	0.20	-	-	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御				0.3	2.1	0.35	-	-	-	2.1
1 室温				0.5	3.2	0.50	-	-	-	
2 外皮性能			窓システムSC:0.28/0.88=0.32、U=2.99(W/m2K)、外壁その他: U=0.62(W/m2K)	3.0	3.0	0.38	-	-	-	
3 ソーン別制御性				3.0	4.0	0.25	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.38	-	-	-	
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.20	-	-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用				0.2	2.8	0.25	-	-	-	2.8
1 昼光率				0.3	2.4	0.30	-	-	-	
2 方位別開口				3.0	2.0	0.60	-	-	-	
3 昼光利用設備				-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策				3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1 昼光制御				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 照度				5.0	3.0	1.00	-	-	-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.15	-	-	-	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策				0.2	2.7	0.25	-	-	-	2.7
1 化学汚染物質			JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	0.5	4.0	0.50	-	-	-	
4.2 換気				3.0	4.0	1.00	-	-	-	
1 換気量				0.3	1.6	0.30	-	-	-	
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	1.0	0.33	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	1.0	0.20	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				0.2	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	1.0	1.00	-	-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.2	0.40	-	-	-	3.2
1 広さ・収納性			1人当たりの執務スペースが9㎡以上。	0.4	3.3	0.40	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	4.0	0.33	-	-	-	
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				0.3	3.3	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)			事務室の天井高2.7m以上。	3.0	4.0	0.33	-	-	-	
2 リフレッシュスペース			リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上+自動販売機等の設置	3.0	5.0	0.33	-	-	-	
3 内装計画				3.0	1.0	0.33	-	-	-	
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.3	3.6	0.31	-	-	-	3.6
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			建築基準法の必要保有水平耐力に対しては、50%以上の安全率となる。	0.4	4.6	0.48	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	5.0	0.80	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		②		0.3	2.7	0.33	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	2.0	0.23	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.15	-	-	-	
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	
3 電気設備		②		3.0	3.0	0.20	-	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上。		5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≦[壁長さ比率]<0.3	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	ケーブルラック内配線、配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	3.0	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPIm=0.68。	3.0	5.0	0.30	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEIm=0.35。	3.0	5.0	0.30	-	5.0
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.8
1 水資源保護				0.1	3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 節水					3.0	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	0.6	3.6	0.60	-	
1			独自④	雨水利用システム導入の有無	3.0	4.0	0.67	-	
2			独自④	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.8	0.63	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.21	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			② 独自	断熱材、床:数値ビタール、床:ビニル床タイル	3.0	5.0	0.21	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			② 独自	LGSとOAフロアを使用している。	3.0	5.0	0.25	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68	-	
1			独自④	消火剤	-	-	-	-	
2			独自④	発泡剤(断熱材等)	-	5.0	0.50	-	
3			独自④	冷媒	3.0	3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率が53%。	-	4.8	0.33	-	4.8
2 地域環境への配慮					0.3	3.3	0.33	-	3.3
2.1 大気汚染防止				燃焼機器を使用していない。	-	5.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.5	0.25	-	
1			独自④	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	
2			独自④	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	
3			独自④	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	
4			独自④	廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.1	0.33	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	
1			独自④	騒音	-	3.0	1.00	-	
2			独自④	振動	-	-	-	-	
3			独自④	悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	
1			独自④	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	
2			独自④	砂塵の抑制	-	-	-	-	
3			独自④	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.7	0.20	-	
1			独自④	屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策	-	4.0	0.70	-	
2			独自④	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)豊栄交通株式会社新本社ビル

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.6	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:6.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)豊栄交通株式会社新本社ビル

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	開口部遮音性能:T-2以上。 窓システムSC:0.28/0.88=0.32、U=2.99(W/m2K)、外壁その他: U=0.62(W/m2K)
Q2 サービス性能	1人当たりの執務スペースが9㎡以上。 事務室の天井高2.7m以上。 リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上 建築基準法の必要保有水平耐力に対しては、50%以上の安全率となる。
Q3 室外環境(敷地内)	特になし。
LR1 エネルギー	BPI _m =0.68。 BEI _m =0.35。
LR2 資源・マテリアル	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGSとOAフロアを使用している。 ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率が53%。 燃焼機器を使用していない。 光害対策ガイドラインの項目の一部を満たす。また、広告物照明は行っていない。
その他	特になし。